

ブロイラー産肉能力に関する試験 [第47報]

森奈津・山本光生・松長辰司・馬木康隆・富久章子

要 約

ブロイラーの改良と農家経営の指針を得るため、県内で飼育されている主要銘柄であるチャンキーについて、令和3年9月14日から令和3年10月26日（42日間）まで産肉能力試験を実施した。

6週齢時の雌雄平均成績については、育成率が100.0%、出荷時体重が3,104g、飼料要求率が1.41であった。また、プロダクションスコアは528.5であった。一方、と体成績では、と体歩留が96.2%と高く、むね肉+もも肉+ささみ歩留は、と体重に対して47.0%であった。

以上の結果から、ブロイラーの品種改良が進み、能力が毎年向上していることから、今後も継続した試験が必要である。

目 的

当課では、ブロイラー改良の動向を把握するため、昭和52年からブロイラーの主要銘柄について産肉能力試験を実施している¹⁾。本試験では、県内に流通している市販1銘柄を用い、その発育性、飼料摂取量、飼料要求率及びと体成績について調査した。

材料および方法

1) 試験期間

令和3年9月14日から令和3年10月26日（42日間）。

2) 試験区分

供試鶏種及び羽数を表1に示した。雌雄それぞれ50羽供試し、雌雄別飼とした。

表1 試験区分 (羽)

銘柄	♂	♀	計
チャンキー	50	50	100

3) 供試飼料

供試飼料の種類及び成分を表2に示した。

試験期間を通して市販のブロイラー用飼料を用い、不断給餌とした。

4) 飼養管理

試験鶏舎は平飼開放型鶏舎で1室4.32平方メートルを使用し、各室50羽（38羽/3.3m²）を収容した。育雛、育成とも同一場所で飼育した。温度管理は当課の慣行に従い、パンケーキ型ガスブルーダーによる給温は2週齢時に廃した。飲水はニップルドリンカーを使用し、不断給水とした。

5) 衛生管理

ワクチネーションは、孵化場にてPOX、MDを接種、初生時にIB、2週齢時にND、17日齢にIBD、3週齢時にILT、4週齢時にNDとした。

表2 供試飼料

期 間	種 類	成 分 (%)				ME (kcal/kg)
		C P	粗脂肪	粗繊維	粗灰分	
0-3週齢	ブロイラー肥育前期用	20.0	4.0	5.0	8.0	3,150
3-5週齢	ブロイラー肥育後期用	18.5	4.5	5.0	8.0	3,230
5-6週齢	ブロイラー休 薬 用	18.0	4.5	5.0	8.0	3,300

C P : 粗タンパク質 ME : 代謝エネルギー

6) 調査項目

調査項目は次のとおりである。

- (1) 鶏舎環境
- (2) 育成率
- (3) 発育体重
- (4) 飼料摂取量
- (5) 飼料要求率
- (6) と体成績

(2) 育成率

育成率は、雌雄ともに100.0%であった(表3)。

表3 育成率 (%)

♂	♀	平均
100.0	100.0	100.0

(3) 発育体重

発育体重は表4のとおりである。

6週齢の1羽あたりの発育体重は、雄3,388g、雌2,819gであった。

表4 週齢別発育体重 (g)

性 \ 週齢	0	1	3	5	6
♂	42.3	176	985	2,536	3,388
♀	42.3	162	912	2,191	2,819
平均	42.3	169	949	2,363	3,103

結果および考察

(1) 鶏舎環境

鶏舎気象について、各週齢における平均値は図1のとおりである。

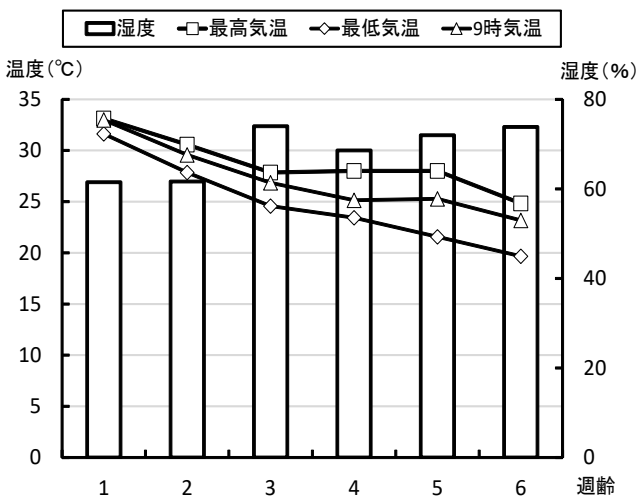


図1 鶏舎気象

(4) 飼料摂取量

飼料摂取量は表5及び表6のとおりである。

6週齢までの1羽あたりの総摂取量は、雄4,602.5g、雌3,959.2gであった。

表5 1日1羽あたりの飼料摂取量 (g/羽/日)

飼料種類・週齢		前期用			後期用		休薬用
		1	2	3	4	5	6
性	♂	18.9	52.7	93.3	126.4	170.1	196.1
	♀	17.1	46.6	84.7	108.6	142.9	165.7
	平均	18.0	49.6	89.0	117.5	156.5	180.9

表6 期間別飼料摂取量 (g/羽)

性	期間	0-3	3-5	5-6	計
	週齢	週齢	週齢		
♂		1,154.3	2,075.5	1,372.7	4,602.5
♀		1,038.8	1,760.5	1,159.9	3,959.2
平均		1,096.6	1,918.0	1,266.3	4,280.9

(5) 飼料要求率

飼料要求率は表7のとおりである。

6週齢時において、雄1.38、雌1.43であった。

表7 飼料要求率

性	週齢	3	5	6
♂		1.22	1.30	1.38
♀		1.19	1.30	1.43
平均		1.21	1.30	1.40

(6) と体成績

と体成績を表8に示した。

と体調査は、6週齢時に食鳥取引規格に基づき実施した。調査に供試する個体は、各区の平均体重に近い雄及び雌を、それぞれ3羽ずつとした。

と体歩留は、平均96.2%であった。むね肉、もも肉及びささみの合計である正肉歩留は、と体重に対して47.0%であった。また、腹腔内脂肪は1.7%であった。

(7) 経済性

経済性を表9に示した。

6週齢における1羽あたりの所得は雄198.9円、雌140.5円となり、雌雄平均は169.7円であった。これらを性体重1kgあたりの所得に換算すると、平均は54.3円となった。

ブロイラーの能力は毎年向上しており、今後も調査を継続し、ブロイラーの能力に適した飼養管理技術の改善を図る必要がある。

文 献

- 1) 山本光生・清水正明ら. 徳島畜研報. 21. 20-23. 2022

表8 と体成績 (6週齢時)

(体重: g, その他: %)

項目 性	生体重	と体重	と体 歩留	正肉歩留				骨付き 手羽	可食内臓割合				腹腔内 脂肪
				むね	もも	ささみ	計		心臓	筋胃	肝臓	計	
♂	3,400	3,290	96.8	23.0	20.4	4.1	47.5	7.8	0.4	1.0	1.9	3.4	1.4
♀	2,827	2,703	95.6	22.2	19.6	4.6	46.4	11.9	0.5	1.3	2.3	4.0	1.9
平均	3,113	2,997	96.2	22.6	20.0	4.3	47.0	9.9	0.4	1.2	2.1	3.7	1.7

表9 経済性試算表

(P S以外: 円)

項目 性	収入	支 出				P S	所得 (収支)	
		素ヒナ代	飼料費	光熱費等	計		1羽あたり	1kgあたり
♂	508.1	80	195.2	34	309.2	586.2	198.9	58.7
♀	422.2	80	168.3	34	282.3	470.7	140.5	49.9
平均	465.5	80	181.8	34	295.8	528.5	169.7	54.3

- 注 (1) 収入: 1羽あたり平均体重(kg) × 150円
 (2) 飼料費: 前期用49円/kg, 後期用41円/kg, 休薬用39円/kgで試算
 (3) 光熱費等内訳: 衛生費16円/羽, 光熱費その他等18円/羽で試算
 (4) P S: プロダクションスコア = {(出荷時体重 × 育成率) ÷ (飼料要求率 × 出荷日数)} × 100
 (5) 所得: 収入 - 支出